

当市域では、古くは縄文時代晩期の遺跡が確認され、縄文時代では土偶等が、弥生時代では銅鐸等が出土し、古墳時代になると多くの古墳が築かれました。古代では那賀郡・勝浦郡に含まれ、中世ではいくつかの荘園が設定されます。一説には、京都の小松郷にあった仁和寺の荘園があったことから小松島の地名が生まれたといわれています。また「勝浦郡村誌」によれば、源義経が当地に上陸したとき松に駒をつないだため、コマツナギ島と称し、これが地名の由来であるとされており、他にも、勝浦川の三角州上の「小松の島」に由来するという説もあります。

小松島の地名が文献に登場するのは鎌倉時代からで、当時の文献からは、小松島の船が紀伊水道で大いに活躍していた様子がうかがえます。

近世、蜂須賀氏が入国してからは太平の時代が続き、金磯新田などの新田開発が次々と行われました。農業が発達して耕地が急激に広がる一方、徳島藩の直轄地として小松島湾岸にある小松島浦に集落が形成され、在郷町として発展していききました。



2

Chapter I

小松島という地名

中世、京都の小松郷にあった仁和寺の荘園がこの地にあったことから、小松島の地名が生まれたといわれている。

In this municipal area, about thirty ancient tombs were unearthed, and stone implements and ware of the Yayoi period were excavated. A number of manors were established in ancient times and the medieval ages, and were important centers of transportation by land and sea. Komatsushima City in the Edo era flourished as a commercial and financial center in Awa province, where the agricultural industry grew owing to developed newly reclaimed rice fields, and wealthy stores stood side by side in the port.



- 1 5世紀に造られた前山古墳、東側の丘陵の前山遺跡からは埴輪も出土
- 2 勢合山から出土した高さ約39cmの「袈裟禪文銅鐸」(県指定文化財・徳島県立博物館蔵)
- 3 秋祭りに催される子供たちのやぶさめで知られる櫛淵八幡神社
- 4 巨大な自然石で構築された「弁慶の岩屋」と呼ばれる古墳(県指定史跡・7世紀)